

技術部業務実施委員会報告

技術部業務実施委員会委員 佐藤 卓治

平成22年度の業務実施委員会は、例年通り原則毎月1回（但し9月度は休止）、計11回開催された。各回、総括技術長、系、ワーキンググループ（以下、WG）相互の連絡、計画の通知、活動報告等がなされ、意見の交換、討議を行った。

（1）会議開催日時および特記的議事内容^{（注1）}

第1回 4月21日（水曜日）

議題 I. 平成22年度技術部予算について

- ・技術部運営経費概算は、運営経費として前年度の執行を参考に作成した予算案が提示された。

II. 各WGの活動状況の報告

III. その他

第2回 5月19日（水曜日）

議題 I. 報告事項

II. 各WGの活動報告

- ・科学実験WGより、22年度おもしろ科学実験教室の暫定計画が提示された。
- ・研修WGより、22年度大分大学技術職員研修の計画が提示された。

III. その他

第3回 6月23日（水曜日）

議題 I. 各WGの活動状況の報告

- ・研修WGより、九州地区国立大学法人等技術専門員研修が今年度、本学で12月9、10日に行われる。企画、運営についての人事からの依頼を研修WGが受けることにしたとの説明があった。

II. 技術部組織改編について

- ・総括技術長から現在の技術部組織の改編についての提案がなされた。

III. 班長会議からの報告

IV. その他

第4回 7月21日（水曜日）

議題 I. 各WGの活動状況の報告

- ・科学研究推進WGより、本年度の活動計画の説明があった。
- ・地域貢献WGより、「パソコンを組み立ててみよう」講習会日程の予定説明、また、開放イベントの企画内容説明がなされた。
- ・企画・広報WGより、22年度技術部報告書の詳細が定まり、見積もり段階となった旨の説明があった。
- ・予算WGより、22年度技術部経費についての決定資料説明がなされた。

II. 技術部組織改編について

- ・各系での意見等について質疑応答を行なった。その際、この問題について継続的に検討するため組織検討WGを立ち上げて、協議していくこととなった。

III. その他

- 第5回 8月26日(木曜日)
- 議題 I. 各WGの活動状況の報告
- ・企画・広報WGより、技術部報告書は、250部発注した。9月には全国の大学技術部および九州管内各高専と学内の主な部署に発送する予定。
- II. 班長会議からの報告
- III. その他
- 第6回 10月20日(木曜日)
- 議題 I. 各WGの活動状況の報告
- ・機器・分析技術研究会準備WGより、平成24年の大分大会の実行委員会の構成が決定した。9月東工大で開催された2010年度機器・分析技術研究会で情報収集、調査を行い、合わせて3件の発表を行ったとの報告がされた。
- II. その他
- 第7回 11月24日(水曜日)
- 議題 I. 各WGの活動報告
- ・地域貢献WGより、10月30日の開放イベントは企画名「おもしろい箱」で実施し、無事終了した。参加者の人数は150名であった。
- II. 技術部組織改変について
- ・組織検討WGより、技術部組織改編案について質疑応答、意見交換の後、参加委員による採決を行い、承認された報告書が提示された。これらの結果を各系に持ち帰って、意見を集約することとなった。
- 第8回 12月22日(水曜日)
- 議題 I. 各WGの活動状況の報告
- ・研修WGより、12月9、10日に九州地区の技術専門員研修が大分大学で開かれた旨の報告がなされた。
- II. 技術部組織改編案についての報告
- ・組織検討WGからの報告書を技術部全員が了承し、組織改編を進めていくことに決定した。
- III. 班長会議からの報告
- IV. その他
- 第9回 1月26日(水曜日)
- 議題 I. 各WGの活動状況の報告
- II. 総括技術長からの報告
- III. 班長会議からの報告
- IV. 組織検討WGからの報告
- 第10回 2月16日(水曜日)
- 議題 I. 技術部組織改変について
- II. その他
- ・総括技術長より、超勤について、超勤時間の管理を3月より技術部自体で行うとの報告があった。
- 第11回 3月23日(水曜日)
- 議題 I. 総括技術長からの報告
- ・3月8日の技術部運営委員会にて、技術部組織改編が、原案通り全会一致で承認

された。また、それに伴い、4月から業務実施委員会のメンバー構成を変更するとの連絡がなされた。

II. 各 WG から活動状況の報告

- ・地域貢献 WG より、3月19日のこどもイベント企画は、好評のうちに無事終了との報告がなされた。

III. 班長会議からの報告

(2) 本年度の業務実施委員会のおもだった内容について

業務実施委員会は、発足から年数を経過して技術部の状態が安定化してきたことに伴い、総括技術長からの連絡事項、毎月の各ワーキンググループの活動予定連絡、事後報告など、内容も年間を通して季節毎にある程度の定型化が感じられるようになった。たとえば、春期の予算要求、夏期の研修、秋期、冬期にかけての開放イベント企画、科研費申請、出張申請に関すること等々である。

また、本年度は特に、技術部組織改編に関する検討が重点的な議事となった。第3回本委員会にて組織変更のコンセプトが奥林総括技術長より資料1のように提案された。本件は当委員会において検討を重ねた結果、技術部の総意として3月の第2回技術部運営委員会に提出の運びとなった。

資料1 技術部組織改編について（総括技術長）

当技術部は再組織化後4年が経過し、その間技術職員の支援業務体制の見直しや、「おもしろ科学実験教室」、「パソコン組立教室」の開催、さらに、技術職員の活動状況をまとめた技術部報告書の発行などにも力を入れ、学内外における認知度も高まってきている。しかし、時間の経過とともに組織の硬直化も目立つようになった。

特に技術職員の半数を占める50歳以上の職員は経験、知識共に豊富であるが、ライン化された現在の組織ではその能力に値する位置付けが出来ない状態が続いている。これらの問題に対する解決策として、緩やかなスタッフ制を取り入れた組織改編の必要性について半年間技術部内で議論した。その結果、総意として新たな技術部組織を提案するものである。

技術部組織改編の内容

- ・新たに技術部のポストとして総括技術長補佐、前任技術専門職員、技術主任を設ける。これに伴い副技術長および副班長は廃止する。
- ・技術班長に加えて前任技術専門職員の職名を設けることにより、一部スタッフ制を取り入れるものとなる。

技術部組織改編の理由

- ・前任技術専門職員と技術班長を入れ替える事が可能となり、班の活性化が図られる。技術職員の年齢構成を考慮すると、現状の技術部組織（ライン制）では対応が難しい。事務組織は、いち早くライン制からスタッフ制へと組織改革を行っていることから技術部組織も現状に即したスタッフ制の導入が必要である。

(注1) ; 議事内容は紙数の関係上、大幅に省略されていることをお断りいたします。